

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	胆膵臓がん患者血液中における組織因子の血液凝固活性と血栓塞栓症発症リスクとの関連解析
	研究目的	血栓が作られる原因として、組織因子（Tissue factor）という物質が着目されています。組織因子とは、血管の壁（血管内皮）や血液中の血小板や単球といった成分が作り、血液が固まる際に大きな役割を果たしている物質です。この組織因子はがん細胞によっても作られていることが近年の研究で明らかにされており、がん細胞で作られた組織因子は、微小粒子（Microparticle）として血液中に分泌され、血栓症を引き起こしている可能性が考えられます。しかし、がん細胞で作られる組織因子の量と、血液中の組織因子を含む微小粒子の量との関係は未だ明らかではありません。特にがん治療開始前と開始後で、組織因子が増えているのか、分かっています。そこで、今回我々は、1）血液中の、組織因子を含む微小粒子（Microparticle-associated tissue factor）の量が治療開始後に増減しているのか、2）治療中の組織因子の増減に伴って、血栓症が発生しやすいのかを調べることを研究を計画いたしました。
	研究対象者	2013年6月から2016年11月までの間に「膵がん・胆道がんにおける血栓症発症リスクと組織因子についての前向き観察研究」に参加同意いただき、血液検査させていただいた患者さん。
	研究期間	西暦 2022 年 5 月 30 日 ~ 西暦 2026 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理についての責任者	当センター研究責任者	消化器内科肝胆膵 小林智
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科肝胆膵および臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	消化器内科肝胆膵 小林智 kantansui-renkei@kcch.jp	